

IMAGINE
THE
FUTURE.

附属大塚 学校だより

本校は、世界最高水準の知的障害教育を目指します。

表現することで育つ自尊感情 ～教室の窓から⑨～

昨年12月、「はな組（1.2年）」と「つき組（3.4年）」が「湯島天満宮奉納書道展」に書道作品を出品しました。先日は、境内で行われた書道展に行き、たくさんの作品の中から自分が書いた「字」を探しました。子供達は、自分の作品を背景に写真を撮りました。義務教育段階で「書写」は「国語科」で扱う内容です。小学校では、文字を書くことの基礎となる知識や技能の習得が主な目標となります。一方で高校になると「書道」として「芸術科」に位置付けられ、書の伝統と文化に親しみ、書を通じた創造的な表現や豊かな心の育成を目指します。本校では、各部が書き初めの学習を行います。子ども達にとって毛筆は、「国語（書写）」の学習でもあり、表現活動の一つでもあります。今回の書道展は、出品した作品全てが掲示されました。数多くの作品と並んで自分の作品があることは大変意味あることです。教室とは違った発表機会の場で「〇〇さんが書いた作品があったね、上手に書けたね」、そんな褒め言葉が「私、もっと頑張る」といった前向きな気持ちや自尊感情が育まれていきます。



「頑張る気持ち」を支える「マインドセット」 ～教室の窓から⑩～

自分で決めた目標に向かうためには、自分自身の能力の限界を決めず、努力によって自分は成長し続けると思える「心の在り方（マインドセット）」を持つことが大切と言われています。前者は「固定的マインドセット」後者を「成長的マインドセット」と言うそうです。

主体的に目標に向かう気持ちは、頑張りに応じて自分が望む結果が得られたという経験や、他人との比較ではなく以前の自分と比べて伸びた自分が評価される経験、結果に対してそれをもたらした努力の過程に焦点を当てた賞賛などが、成長的マインドセットを活性化するようです（キャロル・S・ドゥエック「マインドセットやればできるの研究」草思社）。

知的障害教育においても、子どもの頑張りや努力の過程をしっかりと評価することが大切です。うまくいった結果とそうでない結果も受け止め、次の目標に向かうためには、「成功か失敗か」、「できたかできなかったか」、「〇か×か」という評価を問題にするのではなく、その過程でどれだけ本人が頑張れたか、努力できたのかを評価します。「私には無理」「できない」という気持ちをポジティブなマインドセットに切り替えることで、次の課題に向かう力が育っていきます。

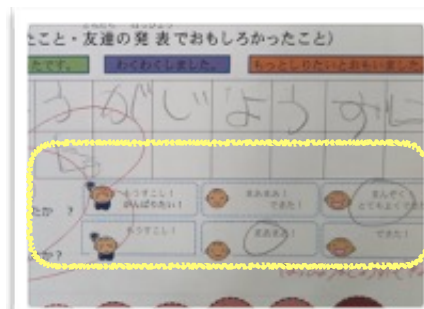


教育現場では、学習評価について様々な工夫がされるようになりました。学習の習熟のみの評価ではなく、学んだことを活用して思考し、判断し、表現しながら主体的に自分の関心事に向かったり、より深い学びに向かったりする姿など、学習プロセスを評価しています。「○（できた）△（もう少し）×（できない）」といった評価は、子どもを固定的マインドセットの暗示にかける怖さがあります。幼児期から「できない」ことを指摘され続けた子どもは、自分自身をポジティブに捉える自尊感情が低下してしまいます。こうした背景から、近年NES型評価という方法が提案されました。その内容は、取り組みに対して「N（Needs Improvement）：課題があるのでもっと良くしたい」、「E（Excellent）：達成には至らないがとても頑張ったので自分を褒めたい」、「S（Satisfactory）：ここまで出来れば十分満足できる」というようにポジティブに自己評価します。

本校でも、「生活」の振り返りシートや作業学習日誌、現場実習報告会の振り返りなどでNES型評価を取り入れています。例えば、達成したら◎（S）、頑張ったら○（E）、課題があったら△（N）といった表記を使っています。子どもの前向きな「頑張る気持ち」を支える「マインドセット」について、皆さんも考えてみませんか。



高等部現場実習報告会では、目標の振り返りをNES型評価で発表します。



中学部「合同生活」で使用している「振り返りシート」もNES型評価を参考に、ポジティブな自己評価を行なっています。

～本校の「合理的配慮」～その3～ 主権者教育の取り組みから

平成25年公職選挙法等の改正により、成年被後見人の選挙権が回復し、平成27年には満18歳を迎える高校生が在学中に選挙権を有することになりました。これにより、特別支援学校に在籍する生徒が選挙に参加する機会が得られました。

高等部では、文京区選挙管理委員会と連携し、政治に参加することとはどういうことなのか、選挙にはどのような仕組みがあるのかなどを学習する主権者教育を行っています。今年も、選挙管理委員会職員による出前授業が本校で行われました。

1日（金）は、立会演説会が行われ、多くの職員が見守るなか、実際の選挙で使用する記載台と投票箱などを借用し、投票用紙も同じデザインを使用するなどして、現実度の高い投票の学習を行いました。知的障害のある方々にとっての選挙は、候補者の公約を理解することと、選ぶこと、さらには投票用紙への記載についても配慮が必要です。現在は、障害者差別解消法により、選挙においても障害のある方への合理的配慮が求められています。

投票会場では、受付で、投票の補助や代理投票を頼みたいと本人が申告すれば、補助者が援助してくれます。



文京区選管による出前授業の様子



生徒の名前が入った入場整理券を作っていました。

障害のある方の家族やその他関係者は補助者になれませんが、投票者が指差しなどの方法によって投票したい人を特定したり、必要に応じて選挙公報を見るなどして立候補者の顔を確認したりすることができます。今年度は、実際の選挙を想定した「合理的配慮」として職員に補助要因として待機していただきました。書字が苦手な生徒は、代理記載を申し出て、候補者名の「確認と代筆」をしていただきました。高等部では、政治の主体者としての実感が得られるこのような経験の場を今後も大切にしていきたいと考えます。



代理記載をしてもらう生徒の様子。
学校の代表を選ぶ生徒会選挙を通して、将来、社会の一員として政治に参加する意識を高めてほしいと願っています。



今回体育館で準備していただいた機材は、全て実際に使用する本物です。生徒たちは緊張感をもって取り組む姿が印象的でした。



2月の予定

- | | |
|--|---|
| 1日(金) 生徒会選挙立会演説会投票(高)
心のバリアフリー交流(高) | 15日(金) 中高生徒学校休業(教員研修)
小学部11:15下校
幼稚部14:00下校(給食なし) |
| 5日(火) 「ライフキャリア学習」(高)
1班:老人ホーム「洛和ヴィラ文京春日」出張カフェ | 19日(火) 個人面談①(幼小中高) 14:00下校 |
| 6日(水) 「ライフキャリア学習」(高)
1班:東京キャンパス(教室清掃, 図書館業務補助) | 20日(水) 個人面談②(幼小中高) 14:00下校 |
| 7日(木) 11:15下校(幼小) 11:30下校(中高)
介護等体験①(筑波大・中央大) | 21日(木) 個人面談③(幼小中高) 14:00下校
ミニ避難訓練
校外学習(中) ボウリング |
| 8日(金) 研究協議会
下校時刻は各部で確認 給食なし
介護等体験②(筑波大・中央大) | 22日(金) 個人面談④(幼小高) 14:00下校
附属小交流(小) |
| 12日(火) 発育測定(幼小)
修学旅行(高2)～15日(金)
熊大附属交流会・防災学習
長崎市内平和学習など | 25日(月) 個人面談⑤(高) 14:00下校 |
| 13日(水) にこにこ広場・教育相談 | 26日(火) 「英会話」(中) ALT
個人面談④(中) 14:00下校 |
| 14日(木) マック体験(中) ※附属高校交流中止(中) | 27日(水) にこにこ広場・教育相談
スマイル(中) 14:00下校(小) |
| | 28日(木) スマイル(高) 14:00下校(小)
作業終了(中) マック体験(中) |



編集後記 先日、PTA活動をする保護者から主幹教諭の仕事について質問がありました。所属がなく、担任でもない主幹教諭の仕事はさまざまです。主に校長、副校長の補佐をしています。この「学校だより」も担当していますよと伝えると「え?そうなんですか?」と返事が返ってきました。そうなんです。今年度は、3月号(No.12)が最終です。これからも「教室の窓」から子ども達の育ちについて考えていきたいと思っておりますのでご期待ください!